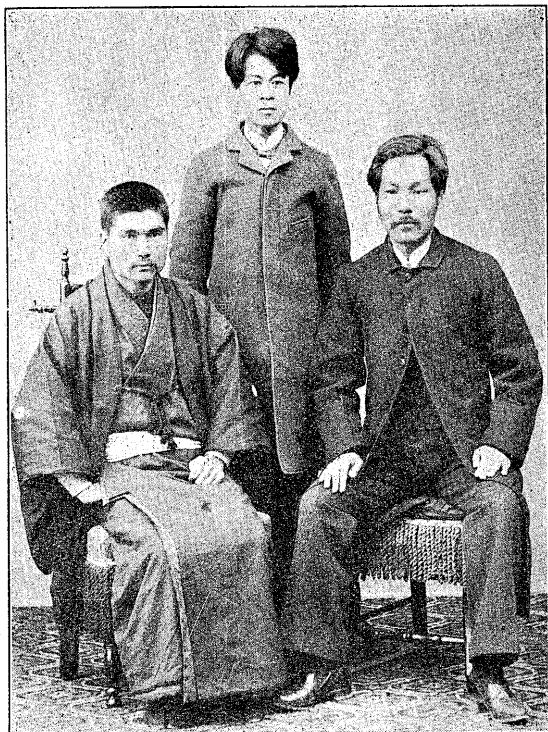


○植物古名考

永沼小一郎



(左)郎吉勢野矢故 (中)郎太富野牧 (右)郎一小沼永

(影撮テニ知高佐上冬年五十二治朝)

植物學語ノ字典等ノ寫シヲ今モ尙秘藏シテ居ル此學德兼ネ備ヘラレタ先生ハ實ニ十有八年ノ間高知ノ學校ニ教鞭ヲ執ラシタルカヲ先生ノ蕭陶ラ受ケタ學生ハ非常ニ多數デアアル從テ「永沼先生」ト云フ名ハ今日デモ土佐ノ遠近ニ知ラヌモノハ殆ンドナイ

牧野富太郎謹識

植物ノ古名ヲ研究スルニハ聊音韻學ト文學トノ變遷ヲ論ジテ置ク必要ガアル、古事記、舊事記、古語拾遺、日本紀、萬葉集、本草和名、新撰字鏡、神樂、催馬樂、諸國風土記ナド概奈良朝ノ頃ニ出來タ本ハ音字ノ用卅方

ノ嚴格ナルコトハ眞ニ驚クベキ程デアル。中ニモ記紀萬葉ナドハ假字ニ清濁ノ二様ガアッタガ是レカラ後ニ出來タ字鏡ヤ本草書ナドニ至ルト濁音假名ト云フ者ガナイソレハ丁度今ノ官報ニ例ヘバ「論スヘカラス」ナドノヤウニ清音デ綴ッタマ、デ濁點ノ沙汰モナイガソレデ少シモ紛ル、コトノナイノハ妙デアル尙古歌ニ就テ云ヘバ「春の心はのとけからまし」ノシハ澄ミテ假定ヲ意味シ若シソレガ「春の心はのとけかるまし」ナラバシハ濁リテ否定ヲ意味スルナドイロイロノ點カラ音ノ清濁ハ自ヅト判セラル、ノデアルシカシ官報ハ物名ダケニハ例ヘバ「ブラジル」ナド、濁點ガ施シテアル。ソレカラ又吾邦デマダ五十音圖ノ發明ガナカッタ時ノ清音ハ五十デナク四十八デアッタソレハ如上ノ古書ノ假字ヲシラベタ外ニ又無同音ニ綴ッタ「あめつち」ト云フ古キ句ガアツテソレガ四十八音カラ成ツテ居ルノデソレガワカッタシカルニ平安朝ノ始メニ高僧空海師出デ、新ニ平假字ヲ創製（或ハ整頓）シ別ニ又無同字ノいろハ歌ヲ作ッタ其字數ハ以前ノ「あめつち」ノ古句ヨリえノ一字ガ不足シテ四十七字シカナイ試ニ之ヲ絶對五十音ニ較ベテ見ルトあやわノ三行ガ各々一字ヅ、缺ケテあいう。やゆ。え。わ。を。トナルワケデアル。此。を。二音ハ古書ニモナイガえ音ヲ入レナカッタハ何故デアッタデアラウカシカシ文字ハ字音デナク其ノ訓ヲ取ッタノデソレガや行ノ所屬デアアルワケハ「けふこゑて」ハ「今日越ゑて」ニテこゑ、こゆ、ト活ラク辭又江ノ訓モデアアルカラデアアルノ字ハ于ノ草體デ此字ハわ行ノ所屬デアアルケレドモコレハ有爲の奥山ノ有ノ字ニ宛テ、有ツテ其ハあ行ノ所屬デアアルカラコレハ字性ニカ、ハラズあ行トスベキデアアル但古書ニハ此ウ。ノ別ハ立テ、ナイ元來い、い、う、う、ノ別ハ只音韻學上ノ區別デアツテ口音ノ上デハ之ヲ區別スルコトハ不可得デアアラウシカシえ。の。音ハ口音デモ明ニえ、い。え。ト云ヒ分ツコトモ出來ルカラ古名ヲ論ズルニハ是非之ヲ復活セネバナラヌ例ヘバえごま、えのき、えびかづら、ゐうり、ゐだナゾト書クノデアアル空海師ガ平假字ヲ作ツテ萬葉假字ニ換ヘえゑヲ合併シ清音ヲ以テ濁音ヲ兼ネシメタノハ實ニ文學上ノ一大刷新デアツテ其功勞ノ偉大ナルコトハ近時羅馬字ヲ以テいろハニ替ヘ其結果トシテ清濁ノ制ヲ

復活シ更ニわ行ノゑをノ三音ヲ馘リテ清音ヲ四十四トナサント敦圀イキマケル新進家トハ日ヲ同ジウシテ談ズベキ
 デナイガ物一利アレバ一害アリデ平假字モ轉寫毎ニ原本ノ舊體ヲ戕ヒ誤寫ノ如キモ自ゾト多クナリ加フルニ新
 古今時代ニハ一種定家假字ヅカイノ新派起リテ故意ニ其紛糾ヲ助勢スルニ至ツタ、以上ハ只假字ヅカイニ就テ
 云ツタノデアアルガ文法ハ自他ヤ時ノ關係ノ亂レタコトハける大過ヲつゝ現在現從出從出發發フに到著ニ改メタルナド枚舉
 ニ違アラヌ殊ニ物名ナドハ全ク論外視セラレ偶古名ヲ歌ニヨメバ去ゑ去ヲセリノコト、シタルナド時ト共ニ次第
 ニ事實ニ遠ザカリ後世ノ説モ多岐ニ涉リ爲メニ其研究モ頗ル煩ハシクナツタ、シカシ茲ニハ繁ヲ省キ主要ナル
 論點ノミヲ掲ゲテ纔ニ研究ノ緒ヲ闢キ以テ大方ノ教示ヲ乞フコト、シタノデアアル

(一) あはぎ

憶紀(日本紀)

今名 みそはぎ

(みそはぎ科)

古事記ニ阿波岐原トアルヲ日本紀ニ憶原トシタ是ハ詩經ニアル字デ萬歲トカ萬年木トカノ註釋ガアツテ縁喜ノ
 ヨイ字デ又冬青也トモ弓ニ作ル木トモ云ツテアルサテ其冬青ハをよごニ充テアルガ古名錄ニハもちのさトシテ
 アル、シカシ原ノ字ハ字典ニ大野トモ平廣トモ註シテアツテ平野ノコトナレバもちのさヤそよご其外弓ニ出來
 ルヤウナ立派ナ山木ノ生ユル筈ハナイ若シ木デアッタナラカツカツはんのさ位ノコトデアラウ、然レドモ記ニ
 ハ「阿波岐原ニ到リマシテミギハラヒ禊祓ミギハラヒ給ヒキ」トアレバあはぎハ水瀝ミギハラヒトテ水ヲ浴ムノ用ヲナスモノト見ルガヨカラウ果
 シテ然ラバ事情ノ上カラ推シ考ヘテ見ルニあはぎハ今云みそはぎガ最ヨク叶ツテ居ル其名ハヤガテ禊祓ミギハラヒ木ノ義
 デ古クハ之レニ水懸草ト云フ異名モアル、併シみそはぎハ溝葉木ノ義カモ知レヌ、サラバあはぎノ名ハ如何ト
 云フニ是ハ浴葉木あはぎ又畦葉木デアラウあぜ又ハくろノコトヲ只あと云ツタ例ハ外ニモアル、此みそはぎハ濕草デ
 アツテ其分布ハ廣イ者デアアルガ殊ニ暖地ノ日向ノ國ナドニヨク繁茂スル宿根草デアアル、附テ云あはぎヲあわ
 ぎナド、書イテアルノモアルガコレハマチガヒデドコマデモ正音ドホリニヨムノデアアル

(二) うはぎ

宇波疑萬二

今名 よめな

(さく科)

萬葉集ニ見エタル歌ノ中第十卷ニ出デタル一首

春日野ニ煙立つ見ゆをとめらし春野の菟芽子探りて煮らしも

是ハ歌ノ意ガ明ニよめなナルコトヲ表白シテ餘蘊ガナイ或學者ハよめなニ古名ノナイガアキタラスト云ハレタコトガアル若シコレニうはぎト云フユカシイ名ノ在ッタコトヲ知ラレタライカニ満足セラレタデアラウカ但シうはぎノうハ讚辭デウまし葉木ノ謂デアラウ其花ヲ一般ニのぎくト呼ンデ居ル又うはぎヲ後ニをはぎトモおはぎトモシタノガアルガソレハ萬葉ニハナイコトデアル

其歌

(三) つちばり

土針 萬

今名 れんげさう

(まめ科)

吾屋前に生ふる土針心従も想はぬ人の衣に摺らゆな

トアルガ之ヲ倭名鈔ニハ王孫ニ宛テ沼波利久佐此間ニ云豆知波利トシテアルヲ古名錄ニ益母草苗也今名めはじきのわかなヘト云ツテアルガ一向其要領ガ得ラレス今歌ニスガリテ之ヲ考ヘテ見ルニ土針ハ今云れんげさうラシクアルれんげさうハ舶來ナリト云フ人ガアルガ若シサウデアッタトシテモ萬葉時代ニハモハヤ野生狀ヲナシテ居ッタモノデアラウ其故ハ生ふるトアルハ自然ニハエテ居ルコトデ替イタ者カ栽エタ者ナラバまきシトカウゑシトカ云フガ常デアアル、而シテ土針ハ花モ美クシクシテ人ノ注意ヲ惹キ其花ノ色素ハ衣ニ摺ル料ニシタコトハ十分ニウカバハル、サテれんげさうハはぎナド、同ジヤウニ花摺ニハ最適當ナル者ナレバ土針ハイヨイヨれんげさうデアアルコトガ首肯サル、シカシ土針ガ何故ニれんげさうノコトニナルカト云フニ先ヅ土針カラ解イテ見ヨウ即針ハ萩ノコトナリ昔ハリトきトハ通用シテ山吹ヲ山振ト云ヒ古事記ニ手を振りてト云フトコロヲ手をふきてトアル又土ハ土デ凡テ土ニ就テ生ズルモノヲ形容シテ土ト云ツタ例シハ頓醫抄ニ「土いちぢは蛇莓にして」トアリ又ぬすびとのあしノコトヲ本草類編ニつちとちナド、云ツテアルサレバ土針ハ土ニ場シタル萩

ト云フコトデれんげさうノ葉ヤ花ノサマヲ萩ニ見立テ而カモ蛇莓ノヤウニ土ヲ這ッテ居ルトコロカラヤガテ土針ト呼ンダノデアラウ又常ノ萩モ之ヲ衣ニ摺ルコトヲ詠ンダ歌ハ萬葉ニハ其例ニ乏シクナイ (未完)

○本草綱目ノ和刻本

牧野富太郎

本草綱目ト云フ書ハ明ノ李時珍ノ著デアル慶長十一年始テ日本ニ入り我邦ノ漢方醫並ニ本草家ハ本書ノ說ヲ金科玉條トシテ尊重シ其方面デハ主要ナル典籍ノ一ツトナツテ居ッタ頃日私ハ或機會カラ本書ノ和刻本ガ幾通リアルデアロウカト其レヲ蒐集シテ見タ所ガ七八種モ種類ノアル事ガ分ツタソコデ段々歩ヲ進メテ見ルト其外觀ハ右ノ通り幾種ニモ成ツテハ居ルガ其實其版本ハ今私ノ知ル所デハ唯三ツシカナイ此三ツノ版本ヲ原トシテ早晚ニ刷リ出サレタ者ガ種々ニ姿ヲ替ヘテ世間ニ出テ居ルノデアル例ヘバ彼ノ若水本ノ如キハ初版本カラ言フト五度モ姿ヲ替ヘテ其末ノ者ガ若水本ニ化シテ居ル此若水本ハ書肆ガ稻生若水先生ニ乞フテ訂正シテ貰ッタ者デアルガ然シ其版本ハ從前カラノ者デアツテ只其輪廓ノ子持線ヲ單線ニ直シ其訓點ヲ改正シタノミデ (尤モ脱漏セル荏ヲ補ヒ且別ニ附録ヲ加ヘテアレド) 別ニ新ニ版ヲ起シタ者デハナク畢竟舊屋ノ修繕ヲシタ譯デアル此若水本ト成ツタ書ノ初版ガ最初ノ和刻本デ渡來ヨリ三十年後ノ寛永十四年即チ今ヨリ二百八十年前ニ京都デ開版シタ者デ表題ハ「江本草綱目」デアアル此江西南ハ其カラ十六年ヲ闕テ承應二年ニ多少修正シテ再刷ニ附シタ、貝原本ハ右ノ初刻ノ年カラ三十五年後ノ寛文十二年ノ梓行デアアル左ニ其表題ノ種類ト其版本ノ系統トヲ示ソウ

(一) 江本草綱目

最初ノ和刻本

江本草綱目

修正ノ再刷本

新本草綱目

新本草綱目

本草綱目

若水 (美濃紙版)

(二) 江本草綱目

貝原

正校本草綱目

同上 (半紙版)

(三) 新本草綱目

大

新本草綱目

截リ詰メタル半紙大ノ製本

(美濃紙版ニシテ表題ノ字ハ篆書ナリ)

本草綱目ノ和刻本